

talk! talk! talk! 書道家・武田双雲さん



書道家 武田双雲さん

気鋭の書道家・武田双雲さん。テレビ、映画などの題字を手掛けたり、パフォーマンス書道などの斬新な創作活動を展開、今もっとも注目を集めている書道家だ。書く書はいつも自由闊達で生き生きとし、概念にとらわれない表現方法は、多くの人の心を打っている。そんな双雲さんは現在、筆をカメラに持ち替え、ニコイメーキング上で写真ブログ「もじあそび」を連載している。これまで記録用程度にしか撮影していなかったカメラだが、このブログをきっかけにカメラにどっぷりとハマっているとの噂を聞きつけた。そこで今回は、そのハマりっぷりを確かめるべく、双雲さんの書道教室を訪ねた。

プロフィール

1975年、熊本県熊本市生まれ。3歳から母である書家、武田双葉に書を叩き込まれる。現在は湘南にて創作活動を続け、書道教室門下生約250名超（2005年12月より満席状態）。すべての活動の基盤に「感動と元気」を置く。
ホテルオークラ、ホテルニューオータニ、東京全日空ホテル、成田空港などで斬新な個展を開催。フジロックフェスティバル、モスクワ、ブリュッセルなどのイベントにて、数多くのパフォーマンス書道を行い、B'z、野村萬斎など様々なアーティストとのコラボレーションも実践している。また、オリジナルの書道ワークショップが話題を呼び、NHK「課外授業ようこそ先輩」日テレ「世界一受けたい授業」に出演するなど、様々なシーンで活動している。
主な題字作品に、愛・地球博メインパビリオン題字揮毫、吉永小百合主演映画「北の零年」、三島由紀夫原作映画「春の雪」、TBS50周年記念ドラマ「里見八犬伝」、テレビ朝日「けものみち」本「タイヨウのうた」など。2003年上海美術館より「龍華翠褒賞」を授与。イタリアフィレンツェ「コスタンツァ・メディチ家芸術褒賞」受賞。著書に「たのしか」（作品集・ダイヤモンド社）、「書」を書く楽しみ」（光文社新書）、「書愉道」（池田書店）。



Beginning 出会い

S8を手に入れてからデジカメにハマり中 「僕、接写マニアなんです」

ニコイメーキングで写真ブログ「もじあそび」を連載中ですよ。それをきっかけにデジタルカメラにハマっているとうかがったのですが？

ええ、デジカメね。ブログを始めてから本当にハマってるんですよ。このS8、すごいですよ、シャッターも早いし、容量も大きいし、小さくて持ち運びも便利だし、うれしくてずっとこうやって手に持ってるんですよ（笑）。ずっと前に買ったデジカメをずっと使っていたので、今はこんなにすごい機能が付いてるんだ！ってびっくりしましたよ。

これまでも写真を撮る機会があったんですか。

ありましたけど、それはデートするときとか旅行に行くときに撮る程度で、特にカメラにはハマってたというわけではなかったです。あくまでも記録用。でも今回、S8を持つようになって撮るのが楽しくなっちゃって！よく手ぶれをするから手ぶれ機能がついているのもいいですよ。BSS（ベストショットセレクト）※注1も便利でよく使っています。

※注1 BSS（ベストショットセレクト）＝さらにブレを軽減するための機能。BSSをONに設定すると、シャッターを押している間、最大10コマまで連続で撮影することができ、そのうち最も鮮明な1コマをカメラが自動的に選んで記憶してくれる。

そこまでハマったのはなぜなのでしょう？

一番のハマった理由は、接写撮影です。僕、接写マニアなんです（笑）。散歩が好きなんです、散歩中いつも花や葉っぱを観察するんです。人と違う視点でものを見るのが好きで、「この花びらの角度、花の付き方はどうしてこうなったんだ」とか「この葉っぱの枚数を数えてみよう」とかやってたんです。今はそれをデジカメで写真に撮ることができるんですよ。花や葉っぱに、ぐーっと接写で寄って撮れる。自分の見ているものを写真に収めるという感覚がこれまでありませんでしたから、これは新しい発見でした。こうやって撮ると、目で見るとは特別なものに写るんですね。

散歩に行くときに写真を撮ることが多いんですね。

多いですね。あ、でも一番多く撮るのは子供です。去年生まれたんですけど、8割、9割は子供を撮っているかもしれません。いや、9割9分かな（笑）。「あ、あくびした！」「はい、変な顔してー」「立ったー」とか、なんでもいいんです。子供が今くらいの時期に新しいデジカメが手に入ったとなると、もう撮るしかしょうがないでしょう、親としては（笑）。

確かにそうですね（笑）。

ただね、最近思うんですが、写真を撮るようになって100%の感動を自分で受け止めることができなくなったように思うんです。たとえばこれまで、散歩の途中で「なんだこの花！」って思ったら、その感動を自分の中で受け止めて、それを誰かに伝えようとは思わなかった。だけど今は感動した瞬間に、これを写真に撮って誰かに伝えたいと思っちゃうんです。感動を受け止めようとする前に、すでに能動的になっているんですよ。

それはマイナス面だと思いますか？

マイナスかどうかはわかりませんが、事実として、感動を受けたときの思考が以前と変わってしまったということです。デジカメを持つ前と持った後では、ものを見る目、見方は変わりました。でも、何かを得るということは何かを捨てなければならないというのは仕方ないことで、ようは全てがそうならないようにすればいい。バランスの問題だと思います。生活の全てをデジカメを通して見るわけではないですからね。

Pleasure 楽しみ

“開示たがりや”だったからこそ 今の武田双雲がある

僕、基本的に見せびらかしたがりやなんで.....あれ、合ってます？ 見せびらかす、びらかす、そんな日本語ありましたっけ？ というか、“びらかす”ってなんですかね。びら、びら.....考えたらわからないですよ。どっから来た言葉なんだろう。

(笑) なのでしょう。“見せびらかす”は見せて自慢することですよ。“びらかす”は、ひけらかす、開く.....開示する？ 違いますね、たぶん。

あはは、開示ってえらくかっこいい言い方ですね(笑)。そう、僕“開示したがりがや”なんですよ。略して“開示たがりや”。小さい頃からそういう性格でした。小学生の頃、「た」という字をずっと書いていて、ある日自分の中で最高の「た」が書けたと思ったときがあったんです。うれしくて、それを全クラスに見せて回ったんです。でも誰も相手にしてくれなかった。先生も「ああ、うまいな」で終わり。「そうじゃなくて、この角度とか、文字の間隔とかもう一度見てくれ！」って言っても誰も理解してくれなかったですけどね。

だから写真も撮ったら人に見せたいんですよ。子供を撮ったら生徒さんにデジカメを回して「ほら、かわいいでしょ！」って見せたりしていますからね。そういう意味でもすぐに撮ったものが見られるデジカメは楽しいですね。

人に見せたいというのは、反応が返ってくるのが楽しいというのがあるんでしょうか。

それはあるかもしれませんね。何か見つけたら黙ってられない、リアクションしてもらいたいんですよ。うちの家系はそういう遺伝子を持っているんだと思うんです。だからもうこの性格はしょうがない。両親もいちいちリアクションが大きさだったりして、僕もその影響を受けてこの性格になったんだと思っていたんです。でもこの間、うちの子が何かを見つけて「ぶおお！」って大きいリアクションを取っているのを見て、遺伝子だと悟りました。自分のおならの音にびっくりして大げさなリアクションしたりとかね(笑)。



物心つく前から(笑)。

そう、だから遺伝子ですよ。でも、だから今、僕は書道家をしているんだと思います。なんで武田双雲をやっているのかって“開示たがりや”だからですよ。「こんな書いたから、すごいのができたから見てくれー！」って。普通、書道って“内”に向かうものなんですが、僕は常に“外”に向けて書いてきたんです。僕がもしストックに自分の中でああして、こうしてって書いていただけだったら、こういう形で世の中に出るはいなかったと思いますよ。こうやって取材を受けたりするのも大好きですよ(笑)。

お話されていて、とても楽しそうです(笑)。

いやあ、楽しいですね！前は誰も相手にしてくれなかったのに、今は話したことを記事にしていだけるんですよ！しかも今回は撮った写真まで見てもらえ

るんですよ！

こんな性格ですから、学生時代や会社勤めをしていた頃はやっぱりちょっと浮いていたかもしれないですね。いわゆるアーティストという肩書きになって本当によかったですよ。水を得た魚と言いますか、前は理解されなかったようなことをやっても「さすが、アーティストっぽいですね」って言ってもらえたりする(笑)。疎外感を感じることもありましたが、それでも見せびらかすことを続けて来たから、今楽しくいられるんだと思っています。

Photo's 作品紹介

双雲さんが受けた感動 写真と言葉になって



1 なんだこの色
なんだこの形
なんだこの連係プレイ
なんだこの魅力



2 お気に入りの喫茶店
必ず出てきてくれる水。
水と氷がコップの中。
なぜ透明？
なぜ液体？
なぜ固体？
分子の色はも透明？



3 こんな美しい色に世にあっていいのかい、
ひょっこり控えめ富士山がまたにくいね。



4 進化の過程。
鳥の羽。
厳しい地球が育んでしまったんだね。
この美しすぎる色と形を。



5 進化の過程。
鳥の羽。
厳しい地球が育んでしまったんだね。
この美しすぎる色と形を。



6 「水不足よ。かかってきなさい。」
ぶっくりと貯めた水と
力強い質感と形がそう主張しているように聞こえる。

Future これから

技術にとらわれるのではなく それぞれの個性を出すことが大切

写真と書ではまったく違うものですが、両方とも何かを表現するツールなのではないかと思います。双雲さんから見て写真と書の共通点はありますか？

写真と書.....これがね、何か共通点がありそうなんですけどまったくつながらないんですよ（笑）。書はそこに「言葉」があるんですが、写真はそこに「言葉」をはさまないで、どちらかという感覚で見るとは感じませんか。そこが大きく違うんです。ピジュアルを見て、「あー、綺麗だなあ」って思う。書はそういう伝え方ではないですね。でもひとつ写真と書の話をする、僕はよく講演会などでフォトグラファーの話をするんです。書道家もフォトグラファーもいわゆる同じアーティストですが、書は手で筆を使って書く。しかしフォトグラファーは、最終的にはカメラを使ってシャッターを押すだけ。もちろんライティングや構図などいろいろな技術が必要なことは承知していますが、方法としては押すだけのアーティストです。それなのに、どうしてこんなにいろいろな写真を撮る人がいて、感動に差が生まれるのか。たとえば同じ技術の人が同じ性能のカメラで、同じ場所で同じ時間に撮っても違う写真になりますよね。それは結局技術ではなくて、その人が何を見て、何に感動したかの違いだと思うんです。もっと言えば、普段どんな生き方をしているかがその人の力になったり表現の違いになったりする。

それは書道も同じだということですか？

はい。書道は手で書くものから、どうしても技術やテクニック、道具の善し悪しに目が行ってしまふんです。でも本当の書の違いってなんでしょう。技術でしょうか？そうではなく、それぞれの個性を表現することが大切なんですよ、ということ言うためにフォトグラファーの話をするんです。同じカメラを使っている、この人はなんで有名なフォトグラファーでこの人はプロにはなれなかったのか。それはカメラの性能や技術だけではなくて、オリジナリティがあったから、考え方や見方に違いがあったからですよ、と。



書道でいうと、まずお手本に似せて書くことを学校で教わりますよね。

もちろん、そうやって技術を磨くことはとても大切なことです。でも、そこに捕われすぎるとはダメだと僕は思っています。人の写真を真似して同じように撮っても面白くないじゃないですか。やはり自分が感動するものを撮らないと。書道も同じで、真似をするだけでなく、自分がいいと思う字を書くことが大切です。それがその人の個性ですから。一番大事なはその人の心、それを忘れちゃダメです。

しかし、自分がいいと思う字ってどんなものか、それを書くのも難しそうです。

自分の中の美を追求するわけですからね、もしかしたらお手本を真似るよりも難しいかもしれないですね。一番いいのは、技術を身につけた上で無邪気に書くこと。良く見せようとか、上手く書こうとかいう邪念を一切持たないで書く。これができれば最強ですね。その瞬間エネルギーがポーンと文字に出るんです。無邪気さは僕のテーマですね。

なるほど。ところで写真はどのように、無邪気に撮れていますか？

どうかな、無邪気に撮ろうとしている部分もあるけれど、でも意図的に見せようともしているかも.....というか、無邪気に撮ってやるうって考えてる時点で全然無邪気じゃないですね（笑）。

ただ楽しいという時期からだんだんとこだわりを持ち始めている状態なので、今が一番無邪気だからかもしれない。もっとハマって行って、「技術じゃなく心だ！」とか言いつつ今度はもっと高いカメラが欲しいとか、一眼レフカメラなんかで撮ったらどうなるんだろうとか言い出したりしてね。ああ、でもそっちの方向にハマって行くのと奥が深そうでもっと怖いなあ。でも行っちゃいたくなったりするのかなあ.....うわあ、怖いなあ（笑）。

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.